

ベネズエラ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ベネズエラ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	1	8	11	45	469	12	46	477

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

当初、日本語教育は、個人指導ベースで日本語に興味がある者を対象として小規模に行われていた。1977年から1978年にかけて、在ベネズエラ日本国大使館及びメトロポリタン大学に日本語講座が開設されたが、後にこれらは閉鎖された。その後、複数の国立大学で日本語講座が開設されるも、そのほとんどが閉鎖に至り、2025年度現在でも継続が確認されているのは、国立シモン・ボリバル大学の講座のみである。他方、近年は私立大学が日本語講座を開講する例も出てきており、2022年にはメトロポリタン大学の現代言語学部に日本文化・日本語の講座が開設され、2025年には日本語の講座も開設された。また、私立アンドレス・ベージョ・カトリック大学は、ベネズエラ日系人・日本人連盟と協定を結び、同大学の学生が、ベネズエラ日本語教師会が提供する日本語授業を特別料金で受講することのできる枠組みが存在するほか、同大学で日本語ワークショップも定期的に開催されている。

ベネズエラの北半分に位置する州を中心に私塾の日本語教育講座も開講しており、マンガ・アニメといったポップカルチャーのみならず、伝統文化から現代のライフスタイルに至るまで、日本文化への関心が多角化していることを背景に、若年層を中心とした日本語学習人口は増加趣向にある。

2007年度以降、JFの日本語能力試験が、年1回実施されている。なお、2020年は新型コロナウイルスの影響で同試験は中止されたが、2021年から再開している。

背景

日本からベネズエラへの政策移住が行われなかったこともあり、他の中南米諸国と比べて、在留邦人数や日系人数は少ない。また、歴史的、地理的要因により、ベネズエラは、欧米偏重傾向にあり、日本語を学習する必要性、モチベーションは、それ程高くはなかった。しかし、在ベネズエラ日本国大使館が各地で実施している日本文化紹介事業などの反響は大きく、日本文化を好意的に受け入れる素地は存在している。特に近年は、若者の間を中心としたアニメ・マンガ・コスプレ文化やJ-POPの浸透、日本食人気、日本の武道をはじめ、生け花、囲碁、禅、盆栽、折り紙、和太鼓、書道、茶道などの伝統文化を含め、日本文化全体に対する関心の増大にともない、日本語への関心も高くなっている。

特徴

ベネズエラにおける日本語教育の中心は私塾の日本語講座であり、初等教育機関、中等教育機関で日本語を教えている学校はなく、高等教育において、常設の日本語講座が開設されているのは国立シモン・ボリバル大学と私立メトロポリタン大学のみである。なお、シモン・ボリバル大学は日本の大学と交換留学協定を結んでいる。多くの日本語学習は、アニメ・マンガをきっかけとして日本に興味を持ち始めるが、同協定による留学や文部科学省の国費留学をモチベーションとしてより高度なレベルで学習を継続する例もある。また、日本語学習者の中には、日本語教師を志す者も増えており、JFやJICAが提供する訪日研修や南米研修を通じて、日本文化への理解と日本語教授法のノウハウを習得した人材が育ちつつある。

最新動向

若年層への日本のアニメ・マンガの浸透に加え、インターネットやSNSを通じて容易かつ即時に日本の情報が入手できるようになったことから、若者を中心に、日本や日本文化に対する関心が高まっており、高度な日本語能力を有するに至る例も少なくない。

他方、日本語学習人口及び学習希望者数が増加している反面、十分な技能とレベルを備えた日本語教師がおらず、希望者の需要を満たすことができていない。日本語学習希望者は、独自にテキストを購入して学習したり、インターネットを利用して学習したりする者も多いが、初級レベル以上の日本語教育を受ける機会が少なく、質の高い日本語教師の不足が、ベネズエラにおける日本語教育の主要な問題点と言える。

なお、ベネズエラでは、2025年7月にJFが実施した日本語能力試験に152名が申し込み、138名が受験した。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

大学における日本語教育では、国立シモン・ボリバル大学及び私立メトロポリタン大学（いずれもカラカス首都圏）で常設講座が開講されている。日本への留学、日本文化に対する興味から学習している者、国際理解・異文化理解の一環として学ぶ者が多い。これらの大学から、文部科学省の国費留学生や内閣府の「世界青年の船」参加青年などを輩出している。また、国立シモン・ボリバル大学は、国立長岡技術科学大学及び東北大学と交換留学協定を締結していることもあり、日本語学習熱は特に高い。

学校教育以外

ベネズエラにおける日本語教育の中心は学校教育以外にあり、各地にある私塾で、日本語講座を開設しているところが徐々に増えている。学習者の多くは大学生や社会人で、囲碁、折り紙、武道、盆栽、アニメなどの日本文化紹介団体に加入している者も散見される。在ベネズエラ日本国大使館が、毎年2～3月に開催している日本語弁論大会にも、日本語学習者の積極的な参加がみられる。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

基本的な教育制度は、初等教育の前段階の教育全般を指す就学前教育（初等教育直前の3年間は日本の幼稚園に相当）、初等教育（日本の小学校に相当）が6年間、中等教育（日本の中学（3年間）、高校（2年間）に相当）が5年間、高等教育（日本の大学に相当）が4年または5年間で構成されている。義務教育は、就学前教育後半の3年間から中等教育までの14年間である。

教育行政

初等教育機関、中等教育機関、専門学校、短期大学は教育省。高等教育機関（4年制大学）は大学教育省の管轄下にある。

言語事情

公用語はスペイン語。

なお、先住民族が、公式の場において、先住民族語を使用することは、憲法上、保障されている。

外国語教育

小学校から高校まで英語が必修科目。通常行われている外国語教育は、英語のみであるが、イタリア、ドイツ、フランス系の学校は、それぞれ、各国の言語を教えている。

外国語の中での日本語の人気

英語・フランス語・ドイツ語など欧米言語の人気が高い。アジア圏の言語の中では、日本語の人気が比較的高い一方、KPOPなどの影響で韓国語の人気も高まりつつある。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

『エリンが挑戦！ にほんごできます』国際交流基金（凡人社）

『みんなの日本語初級 聴解タスク』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）

『日本語の教え方スーパーキット』水谷信子監修（アルク）

『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』海外技術者研修協会（スリーエーネットワーク）

『新絵教材(新日本語基礎 準拠)』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）

『まるごと 日本のことばと文化』国際交流基金（三修社）

『おたすけタスク: 初級日本語クラスのための文型別タスク集』石田小百合ほか（くろしお出版）

『音・形・場面で身につく！ にほんごワーク』古島千尋（合同出版）

『クラス活動集(新日本語の基礎 準拠)』高橋美和子（スリーエーネットワーク）

『日本語コミュニケーションゲーム 80』CAG の会（ジャパンタイムズ）

『日本語で話そうⅠ～Ⅳ』（財）英語教育協議会（英語教育協議会）

『きりはり教室』（日立ソフトウェアエンジニアリング）等

『Japonés Hablado』Basic Spoken Japanese の和訳 Michio Nakamura & Fortunato Brown（Editora ABCD）

等

その他、必要に応じてカード類、CD、カセットテープ、文学作品などによるオリジナル教材を使用している。

なお、国立シモン・ボリバル大学では、日本政府が、文化無償協力（1989年）により、同大学に供与したLL学習機材を活用している。

学校教育以外

『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』（前出）

『みんなの日本語初級Ⅰ&Ⅱ』（スリーエーネットワーク）

『中級へ行こう・日本語の文型と表現 55』第2版（スリーエーネットワーク）

『エリンが挑戦！ にほんごできます』国際交流基金（凡人社）（前出）

『ひろこさんのたのしいにほんご』根本牧ほか（凡人社）

『新板 みえこさんのにほんご』三重県国際交流財団

『まるごと 日本のことばと文化』国際交流基金（三修社）

『いろいろ 生活の日本語』（国際交流基金）

『おたすけタスク』（くろしお出版）

『日本語総まとめ N5・N4・N3「日本語能力試験（JLPT）」対策』等

その他、スペインの出版社が出版する教材やインターネット上のフリー教材を基にしたオリジナル教材を使用している。

IT・視聴覚機材

高等教育では、編集・発表のためのソフトウェア『生活シミュレーションできるよ!』、『きりはり教室』（前出）を使用している。

JF 関連のウェブサイト、スマホ用漢字アプリ、日本語学習アプリ、YouTubeに上げられているさまざまな動画なども活用している。

オンライン授業では Google Meet、ZOOM、Discord、WhatsApp、Google Classroom などを使っている。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

特になし。

学校教育以外

特になし。

日本語教師養成機関（プログラム）

2019年からは、ベネズエラ日本語教師会が、基礎的な日本語教師養成講座や『まるごと』などの教科書を使ったワークショップなどを行っている。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日系人教師を含め、国立シモン・ボリバル大学に1名、私立メトロポリタン大学に1名、ベネズエラ各地の私塾に5名の教師が在籍している。

教師研修

訪日研修として、JFが実施している日本語教師研修がある。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

2007年、ベネズエラ日本語教師会が設立。カラカス市内の日本語教師を中心に、定期的な意見交換、教師養成講座、教材ワークショップ、教材の貸し出しや相談の随時受け付けなどを行っている。2019年からは教師会が行っているさまざまな活動をユーチューブで配信している。また、2008年度より実施している日本語能力試験の実施団体も務めている。

最新情報

2008年12月以降、ベネズエラ日本語教師会が中心となって組織しているベネズエラ日本語能力試験実施委員会が、継続的に、日本語能力試験を実施している。

2025年度南米スペイン語圏日本語教育会議実施委員会にベネズエラ代表として参加。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICAからの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9. 評価・試験

2008年度より、ベネズエラ日本語能力試験実施委員会により、日本語能力試験が実施されている。

また、在ベネズエラ日本国大使館は、毎年、2～3月に、日本語学習者の意欲の向上を目的に、日本語弁論大会を開催しており、全国から集まる日本語学習者が優勝を競い合う（同弁論大会はJF・日本語学習者訪日研修の第一次選考試験を兼ねて開催）。

10. 日本語教育略史

1977年	私立メトロポリタン大学にて日本語講座開設（閉鎖）
1978年	在ベネズエラ日本国大使館に日本語講座開設（カラカス日本人会日本語講座。閉鎖。）
1987年	国立シモン・ボリバル大学にて日本語教育開始
1991年	国立タチラ工科大学にて日本語教育開始（～1997年、2001年～2008年）
2000年	国立ロス・アンデス大学にて日本語教育開始
2006年	ホセ・アントニオ・パエス大学にて日本語教育開始（閉鎖） 国立シモン・ボリバル大学市民大学講座開講
2007年	国立ベネズエラ中央大学にて日本語講座開講（閉鎖）
2008年	2月、初めて日本語能力試験（模擬）を実施 12月、日本語能力試験を正式に実施
2021年	私立メトロポリタン大学にて日本語・日本文化講座開講
2025年	私立メトロポリタン大学にて日本語講座再開

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）